

南洋群島のサソリに追加

高 島 春 雄

Further Notes on the Scorpions of Micronesia

By Haruo TAKASHIMA

戦前その大部分が日本の委任統治領だった南洋群島 Micronesia のサソリは tropicopolitan と看做されるマダラサソリ、東洋区・濠洲区の熱帯・亜熱帯地方に弘布するヤエヤマサソリの両種が早くから知られ、戦後になつて私達はコツネンサソリ *Urodacus marianus* ROEWER, 1943 というのが群島のサソリに仲間入りしているのを知つた。最後のものは私が Acta Arachnologica vol. xii, nos. 1/2, p. 43 (1950) に記して置いた通りでサイパン島から得られただけである。私は南洋群島のサソリの種類はもうふえることはあるまいと想い “Scorpions of Micronesia” と題する 1 報文を草し山階鳥研報 no. 7, pp. 361-363 (1956) に 3 種の略図も添えて掲出した。ところが今春、目下ハワイの Bernice P. Bishop Museum から次々と刊行されている “Insects of Micronesia” の vol. iii, no. 2 (1957) を、この号にメクラグモを報告している Clarence J. Goodnight 氏から寄送を受け、もう 1 種追加されることを知つた。

即ち同じ号に Edward A. Chapin 氏が Scorpionida (蠍目) に就いて報告しており (pp. 65-70) それらは氏の用いる学名通りにすれば *Hormurus australasiae* (FABRICIUS) 即ちヤエヤマサソリ、*Hormurus caudicula* (L. KOCH), *Isometrus maculatus* (DE GEER) 即ちマダラサソリである。これらの学名は第 1 のものと第 3 のものは私が “Scorpions of Micronesia” に用いたのが正しいと思つている。Chapin 氏は Roewer 氏の報文には気が附かなかつたのか、コツネンサソリには全く触れていない。何れにしても *Hormurus caudicula* が加わつたことは承認せねばならぬから、南洋群島のサソリは 4 種になつたことをお知らせし併せて新規加入の “*Hormurus caudicula*” に就き一言したいと思う。

私が *Liocheles caudicula* (L. KOCH) なるサソリを始めて検したのは昭和 18 年で、故新村太朗氏がニューギニアで採集して来られた 2 ♂ 3 ♀ である。和名がないので当時ニヒムラサソリと命名した。詳細の記載は私の “ニューギニア産全蠍目” Acta Arachnol. vol. x, nos. 3/4 (1948) に出してある。私は *Liocheles caudicula* の学名を採用。Synonymy を掲げてみよう。

Ischnurus caudicula L. KOCH, Verh. Ges. Wien, vol. xvii, p. 237 (1877)

Hormurus caudicula, THORELL, Atti Soc. Ital., vol. xix, p. 249 (1879); Kraepelin, Mit. Mus. Hamburg, vol. xi, p. 135 (1894); Kraepelin, Scorp. u. Pedip., Das Tierreich, Lief. 8, p. 67 (1899); Kraepelin, Ark. f. Zool., vol. x, no. 2, p. 43 (1916);

Chapin, Insects of Micronesia, vol. iii, no. 2, p. 69 (1957)

Liocheles caudicula, Takashima, Acta Arachnol., vol. ix, nos. 3/4, p. 95 (1945);
Takashima, do., vol. x, nos. 3/4, p. 86 (1948)

実は私の“ニューギニア産全蠍目”は東京科学博物館報告第18号に収載され1944年に発行の予定で校了になっていたのだが、空襲で発行中止、それで戦後1948年に *Acta Arachnologica* に発表したの、これより後に稿を纏めた“東亜地域に於ける全蠍目”のほうが先に出版されてしまうという不思議なことになった。参照して下さるなら先ず1948年分を、次に1945年の分をという順序にして頂きたい。私は翌年昭和19年末に森下薫博士から、やはりニューギニア産のニムラサソリ 1 ♀ の標本を拝借して調べることが出来た (*Acta Arachnol.* vol. ix, nos. 3/4, p. 82 [1945])。

このニムラサソリは元来 *Micronesia* にいたものでなく比較的近年ニューギニア方面(?)から潜入したものと思われる。チャピン氏はパラオ群島のペリリュー島 *Peleliu* だけに見つかっている；同島産3標本を検したが“Y. Kondo”が1936年4月に採つたのが始めて他は1945年8月、1948年1月に採られている；ペリリュー島には1936年より何年か前に移入されたものだろうと記している。本種はヤエヤマサソリによく似た外形でであるが、後者より大きく(全長 90 mm 近くになったのがある)全身黒味が強く特に触鬚は黒く櫛状器歯数は6~12枚で8~9枚のものが多く、その他の識別点も“ニューギニア産全蠍目”に列挙して置いた。両者の識別は困難ではない。

今にして思うに故江崎悌三教授が“南洋群島の蠍”と題し *Acta Arachnol.* vol. viii, nos. 1, 2 (1943) に書いておられる中に「顕著な事実はパラオ群島に見られるヤエヤマサソリには屢々台湾等のものより遙かに頑強な大形なものがあり、ペリリュー島で得た一箇体では体長(尾状の後腹部を除き) 30 mm, 後腹部が 22 mm に達する」とあるのは注目に価する。これは大きさからはニムラサソリの範疇に入るものである。ニムラサソリがペリリュー島で確認された今日では、江崎教授の曾ての記述がそれと関連あるように想えてならない。その標本は九大農学部に残っているに違いないからいつか調査したいと念う。この機会に同先生の御冥福を祈る。(山階鳥類研究所)